

| | | | | | |
|------------------|--|--------------------|----------------------|-------|----|
| 科目名 | 日本・東洋美術史 | | 教員名 | 永田 真紀 | |
| Subject | History of Japanese and Oriental Art | | | | |
| 開講年次 | 1 | 開講時期 | 前期 | 単位 | 2 |
| 必修／選択 | 必修 | 授業形態 | 講義 | 時間 | 30 |
| 実践的教育 | × | | | | |
| 主な学習効果 | 1) 美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力 | | 2) 表現力、すなわち芸術における実践力 | | |
| | △ | | ○ | | |
| 科目の概要 | 日本の美術と東アジアの美術を総合的に学んでいく。絵画・彫刻・工芸・建築だけでなく、幅広いジャンルを取り上げる。歴史を紐解きながら、書画・宗教・文学・茶の湯・芸能など、さまざまな視座から日本文化の本質を深く掘り下げる。グローバリズムとローカリズムを捉えながら、自らの文化を自らの言葉で語ることを目指す。また、美しく豊かな人生を生きるための教養として、文化・芸術の幅広い知識を身につけ、その魅力を知り、生涯にわたって芸術を楽しめるような講義内容となっている。機会があれば、見学会も実施します。 | | | | |
| 授業の目標 | 東アジアの文化や芸術について、歴史や技法を学び、全体像を把握することを目指す。日本特有の美術、中国や朝鮮半島と共通する美術を理解し、グローバリズムとローカリズムを考える。最終的には、自らの言葉で自らの見解を述べることで、他者に東アジアの美術の特徴と魅力を紹介できるようになることを目標とする。 | | | | |
| 時間外学習 (予習・復習) | 授業内で扱った各項目について、配布したレジュメを参考に60分程度の復習を必要とします。また、次回内容の予習を30分程度必要とします。各テーマについて自らの見解をまとめ、授業内で提示した方法で「調べて、考える」ことを通じて理解を深めること。 | | | | |
| 教科書・教材 | 教科書 | 特に指定なし(授業でレジュメを配布) | | | |
| | 教材 | 特に指定なし | | | |
| | 使用設備・備品 | パソコン・プロジェクター | | | |
| | 参考文献 | 講義内で随時紹介します | | | |
| 評価方法 | 平常点50% 授業内レポート50% | | | | |
| | なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 | | | | |
| 学生へのフィードバックの方法 | レポートに対して、コメントを返します。 | | | | |
| | | | | | |
| 履修上の注意 | 毎回、授業の内容を要約したレジュメを配布します。予習・復習及び、レポートの作成に必要となります。 | | | | |
| 本科目履修と関連する資格 | 資格名 | なし | | | |
| | | | | | |

| 授業計画 | | | |
|------|-----------------------|---|--|
| | 授業内容 | 到達目標 | 予習・復習・備考 |
| 第1回 | 日本の美術・アジアの美術 | 本講義のプロローグとして、アジアと日本の美術の概要を理解できる。 | 今後の授業をしっかりと理解するため、テーマを明確にしておくこと。 |
| 第2回 | 原始の生活と美術 | 原始の造形表現から、想像力や美意識、アニミズムについて考えることができる。 | 原始の素朴な美の中から当時の生活や死生観を考えること。 |
| 第3回 | 仏教芸術 | 仏教による社会の変化、文化の進展を知り、仏像や寺院建築の美について見識を広げることができる。 | 仏教の概略を理解し、社会に及ぼした影響や、仏像や絵画の技の美を復習しておくこと。 |
| 第4回 | 書の芸術 | アジアの漢字を知る。文字のデザイン・書体の歴史・書家などを知ることができる。 | 書の身体性やデザインの力を学習。 |
| 第5回 | 絵巻の世界～四大絵巻とその周辺～ | 物語を絵画化した絵巻について考察する。絵巻という長大なメディアを活かした表現方法を学ぶことができる。 | アニメの源流とも言うべき絵巻の特徴を復習し、現代の映像作品やマンガとの連関を考えること。 |
| 第6回 | 唐物趣味と将軍家のコレクション | 唐物趣味の室町時代。将軍家のコレクション（東山御物）を中心に請来された中国美術について学ぶことができる。 | 請来された中国や朝鮮半島の美術について理解を深める。東アジアに通じる美術について考える。 |
| 第7回 | 室町水墨の名品紹介～如拙・周文・雪舟～ | 詩画軸の制作過程や、構図や技法、画題などを総合的に考察。雪舟の水墨作品を総覧し、造詣を深めることができる。 | 水墨という芸術の表現可能性について考えること。 |
| 第8回 | 茶の湯文化と芸術 | 総合芸術とも称される茶の湯。歴史、建築、道具など全般的に理解することができる。 | 概要を復習し、日本文化としての茶の湯を総括すること。 |
| 第9回 | サムライの意匠～変わり兜・刀～ | 武士の装身具（兜・刀・羽織）の意匠性を見て、流行や特徴を知る。芸術としての粋を感じるすることができる。 | 多様なデザインや色使いからわかる武士の様相をまとめること。 |
| 第10回 | 日本の写実表現～円山応挙～ | アジアの絵画技法におけるリアリティ表現を学び、西洋との相違を理解することができる。 | さまざまなリアリティ表現の差異と特徴を復習すること。関心を持った作品を調べること。 |
| 第11回 | 江戸時代の奇想の画家～伊藤若冲・曾我蕭白～ | 江戸時代の奇想の画家として知られる若冲と蕭白の造形美の魅力を、技法や制作背景から理解することができる。 | 授業で紹介した作品のうち、興味を持ったものについて、自分で調べてまとめる。 |
| 第12回 | 琳派の芸術・現代に通じるデザイン | 宗達・光琳から現代作家に至るまで幅広く取り上げる。絵画や工芸、デザインなど琳派の芸術に関する造詣を深めることができる。 | 授業の内容を復習し、現代において身の回りにある琳派の影響を考える。 |
| 第13回 | 浮世絵を楽しむ | 浮世絵の成立過程や制作技法を学び、表現の醍醐味を考える。描かれた風俗描写から当時の流行を知ることができる。 | 浮世絵を通じて垣間見た江戸時代の日常生活や風俗を理解する。 |
| 第14回 | 西洋におけるジャポニスム | 西欧におこったジャポニスム。拍車をかけた万博の時代。影響を与えた日本美術と感応された西洋美術を理解できる。 | 美術における日本と西欧諸国の影響関係、歴史的背景を復習すること。 |
| 第15回 | まとめ | 講義の総括。初回のテーマに戻り、日本と東アジアの美術について、総合的に理解することができる。 | これまでの授業を総括して、日本や東アジアの美術をまとめること。 |